Title	倉庫と金融
Sub Title	
Author	溝崎, 昌雄
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1916
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.10, No.11 (1916. 11) ,p.1606(128)- 1612(134)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑録
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19161101-0128

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

態論と動態論とを大成するものあらば、斯かる方式が大率「パッテン」に出でたるものを看過すべからず。次に重要な一勢力は、其の「經濟學論叢」が經濟學一般的原理の全學田を網羅せる所の「エール」大學の「エー・チー・ヘッドレー」に歸せらるべし。唯だハ氏の得意は經濟政策の領土に存するものなれば、其の熱心なる貸銀及び利子の研究に於ても、其の成果は「ミル」及び其の他の英國正統學派の結論より、多くは異なる所なきも是非なけれ。此の外、仍ほ新進の學者に「タウシグ」あり、「シーガー」あり、「ダーヴェンポート」あり、米國の純理經濟學界必ずしも多士濟々たらずとせざるなり。

(大正五年六月七日)

倉庫と金融

清 崎 昌 雄

商業の極めて幼稚なる時代に於ては、倉庫業の業務は其範圍甚だ狭く只本來の業務たる貨物の保管をなすに止り、僅かに寄託者をして時の差異に依る價格の高下を利用せしめたるに過ぎざりしか、商業漸く隆盛に赴き信用及び金融の各機關の發達するに伴ひ倉庫業の業務の範圍も亦愈々擴大せられ、且つ他の商業機關と密接なる關係を生じ、今日に於ては必須的の一商業機關として經濟界に重きをなさるるに至れり。

倉庫業か斯くの如く重要視せらるる所以のもの

一、一般商工業者か貨物に關する經費を著しく節約するを得ること

二、倉庫當業者は嚴格なる法律上の責任を以て保管貨物を管理するが故に貨物の危険を可及的輕減することを得

三、倉庫業者の發行する倉庫證券は貨物賣買の用に供し或は貨物質入の用に供し自由に金融の疏通を計ることを得

四、倉庫證券の授受により現品移轉の勞費を除き貨物の輾轉をして容易ならしめ取引の増進を招くこと

等の利益あるか爲めなり就中第三の倉庫證券を債權の擔保として金融の資に充つるの一事は倉庫業の機能中最も重要なものなり。

余は本論に於て所謂倉庫と金融との關係に就て觀察せんと欲す。

二

倉庫と謂へば直ちに倉庫證券を思ひ、倉庫證

券と謂へば又必ず倉庫を聯想する位、此兩者は離る可からざる關係を有するものにして、我商法に於ても特に其第三百五十八條及び第三百八十三條の二に倉庫業者は貨物を寄託者の請求により受託物の預證券及質入證券若くは倉庫證券を發行交附するの義務あることを規定せり。

倉庫證券に關しては由來四つの主義あり。

(一)倉庫證券を全然發行せざる主義(二)單券主義(三)複券主義及び(四)單複併行主義即ち之れなり。(一)は全く證券を發行せざるものにして之れ研究の價值なし、理論上並に實際上の大勢は(二)以下の主義に歸するものゝ如し。單券主義とは預證券を以て賣買質入何れにも併用せらるゝものにして彼の英國の(warrant)は其一例なり。複券主義は二枚證券主義とも稱し、預證券及び質入證券の二枚より成立し、即ち一つは貨物賣買の用に供し一つは質權設定の用に供へ以て金融の便を得んとす、佛國及び其系統を受

くる諸國にありては此主義を採用せり。單複併行主義とは一枚の證券より成立する倉荷證券を認むると同時に二枚の證券より成立する前記の複券主義を認むるものにして換言すれば單券主義と複券主義とを併せ用ふるものにして露西亞及び我が商法は實に此主義によれるものなり。

三

商工業者か貨物を倉庫に寄託し、倉庫業者より保管貨物を代表する預證券並に質入證券又は倉荷證券の交付を受け、之れを以て資金の融通を求めとする場合如何なる手續に依るか云ふに先づ取引銀行又は倉庫會社の特約銀行に至り資金の融通を依頼し、其承諾を得たる時は質入證券に融通を受く可き資金の記入並に裏書を爲し銀行をして之を割引せしむるにあり、而して銀行は之を倉庫業者に送り裏書によりて授受したる旨を原簿に登録せしめ又倉庫業者は質入證券へ特に元帳記入済なる文句を記入し之を銀行

めに倉庫業者に其管理を委託するものにして要は倉庫證券により金融の道を得んとするにあり近時我國に於ても漸く此種の保管の増加を認むるなり。

四

倉庫證券を發行する倉庫會社は各々資金融通に對し特約の銀行を有す。其例を求めれば東神倉庫と三井銀行、東京倉庫と三菱銀行部、澁澤倉庫と第一銀行、住友銀行と住友倉庫、鴻池銀行と大阪倉庫の如き即ち之にして密接にして離る可からざる關係を有すなり。右の外倉庫會社は市内の有力なる各銀行と取引關係を結び顧客の便益を計れり。

勿論銀行か倉庫證券に對して資金を融通する場合には(一)寄託者の信用(二)寄託貨物の性質並に(三)倉庫證券を發行せる會社の信用等によりて其金額及利息は一定せずと雖も、大體に於て其貸付金額は證券面に表はる、保險金額の七

に還付す、斯くして銀行は其期日の到來するや證券面の貨物又は金額授受を寄託者又は預證券の所有者に請求し以て一切の勘定を決済するなり。

我現行商法は前述の如く單複併行主義を採れども實際上流通するは倉荷證券なる一枚より成立する證券にして、之により資金の融通を求めんとせば、先づ銀行宛の手形を振出し倉荷證券をは之れが見返品となすの形式によるなり而して此場合銀行の倉庫業者に對する通知及び倉庫會社の銀行に對する手續は前の場合と略同じ、只此場合は倉荷證券其者か銀行に保留せらる、を以て貨物の一部出庫の如き場合には一々銀行の解除通知を待つて倉庫業者か初めて出庫指圖書を發行するなり。

茲に一言を要するは出保管なり。出保管とは商工業者か自己の倉庫に保管せる貨物に對して倉庫業者より倉庫證券の發行交付を受けしが爲

割乃至八割にして其利率は公債又は株券の如き有價證券の日歩よりも二三厘方高率にあり、勿論金融の繁閑により著しく相違ありと雖も大凡壹錢六厘内外とす。

倉庫の保管貨物に對し幾何の質權設定高ありやら實地調査すれば甚だ興味ある問題なるも實際に於ては日々變動し容易に其確實なる數を得難し。余は僅に東神倉庫の本年八月末日現在の貨物殘商と質權設定高の比較を作れり、其重なるものを示せば左の如し。

品名	保管貨物殘高	質權設定高
米	八〇二、八八三	五八八、五〇六
砂糖	二、五五五、四〇三	六五七、六七七
織物	三、四二八、三五八	七九五、一三三
糸類	一、二七三、〇七五	三六二、〇二〇
金物	九二五、一五四	一六九、五六〇

其他は主要推して知るべし。米砂糖等の如き一般的消費貨物に對しては融通商割合に多きを示せども洋紙藥種染料其他の如き狂奔的暴騰又

は暴落をなしつゝある貨物に對しては比較的其
高少なきは又注目に値す。

右は東京に於ける倉庫對金融關係の一端を示
せるものなるが貿易港にして貨物の集散地たる
神戸の各倉庫及び消費地にして工場所在地たる
大阪の各倉庫に就て研究する所あらんか更に得
る所多かる可し。

五

銀行が手形の割引又は貸付をなすの見地より
して倉庫證券の價值を觀察することも亦等閑に
附す可らざる所なり、銀行業者は公債株式債券
を擔保として貸出をなすの外商品正確に云へば
倉庫業者の發行する倉庫證券を擔保として貸付
をなすを常とす。此場合倉庫證券の代表する商
品は倉庫内に保管せる物品にして、所謂信用の
基礎は貨物其物にあるを以の事實上對物信用に
して、若し萬一債務不履行支拂不渡等の場合に
遭遇することありとするも證券の所持者は決し

て権利の行使を危ふせらるゝことなし。
右の外倉庫證券に向つて放資する銀行業者は
少なくとも次の如き利益を受く可し。即ち最も
保管貨物の授受評量評價等の事務に精通せる倉
庫業者をして評價評量をなさしむるを以て實際
上誤謬の少なきことは其の一にして債務不履行
に際し其責任の一部を倉庫業者に嫁するを得る
は其の二なり。更に倉庫證券を再割引に供して
貸付の期限前に資金を回収し得るの便利あるは
其の三なり。

然るに銀行の倉庫證券に對する放資を批難す
るものあり、其理由に曰く銀行營業の本質より
解釋するに有價證券の價格等に就ては銀行は平
生金融上並に財界の現在の景況今後の變動をも
推測し得るの知識を備ふると雖も、倉庫證券の
代表する商品に對しては甚だ知識に乏しく且つ
評價の困難賣却上の不自由貨物の腐敗滅失に伴
ふ損失並に季節に依り價格の變動等を思へば倉

庫證券に對する放資は頗る危険性を帯ぶるもの
なりと、然れども之れ皮相の見のみ、若し夫れ
銀行自身か商品を擔保として貸付をなす場合に
於ては或はこの危険なしとせず、然れども一旦
倉庫業者をして其間に介在せしむるに至りては
之等の危険は自から驅除せらるゝものと云はざ
る可からず。

六

倉庫證券を擔保として單に債權を保證するこ
とは最も普通に行はるゝ所にして現に商品信用
の大部分此形式によりて與へられつゝあること
前述の如し。然るに此等の倉庫證券が中央銀行
の手に入り、紙幣發行の保證に供せらるることの
可否に就ては學者間に議論なしとせず、而して
其反對論の要點は銀行倉庫證券に對する銀行放
資の反對論と略同しくして唯之を誇張したる點
に於て多少後者と異なるに過ぎず。

されど右の反對論は事實上杞憂に過ぎずして
現に佛蘭西銀行及び其流れを汲める伊太利自耳
義等に於ける銀行は倉庫證券を保證準備として
盛に紙幣を發行し而かも何等の支障を來さざる
のみならず或る場合は商業手形以上に歡迎せら
れつゝあり。中央銀行に於て商業手形公債株式
債券等の有價證券をば紙幣發行の準備に供しな
がら一方倉庫證券が對物信用の代表物なるが故
を以て之を拒絶せんとするは甚だ謂れなきこと
にして且つ國民經濟上より云ふも大なる損失な
り。宜しく其短所を矯正して商業手形同様に活
用するの策に出でざる可からず。

七

勿論我國の倉庫制度は之を歐米諸國の制度に
比較して不備なる點多し。随つて倉庫證券に對
する資金の融通も亦著しきものあるを見ず、管
に倉庫證券に對し質權の設定ならざるのみなら

す、倉庫業者に貨物を寄託し置きながら倉庫證券の發行を全く請求せざる向さへあり、東神倉庫の最近の營業週報の示す所に據れば保管貨物一千四百九十九萬一千七百七十八圓に對し無證券は四百五十三萬三千五百七十六圓の多きに上り其他に禁疏通の保管證書は三十二萬三千〇八十四圓に上るを以て此兩者を差引けば流通性の倉荷證券は一千〇十三萬四千五百十八圓にして右の内又眞に銀行に於て質權の設定せられ居るものは其幾割かに過ぎざるなり。

思ふに兌換券小切手等の流通運用が一に繋つて銀行業者の信用能力にあるが如く倉庫證券の流通運用が倉庫業者の信用資力換言すれば倉庫が證券に記載の貨物を適當に保管し且つ一定の時に相違なく返還すべしとの保證は倉庫證券の

流通を大ならしむるの所以にして結局倉荷證券の流通は倉庫制度の完備に待つの外なしと雖も一面又寄託者並に銀行業者に於て今少しく眼界を大にし、更に研究を積み相互の缺點を補ひ、此好個の商業機關を活用するの策を講せんか、之れ區々たる倉庫業の問題たるに止まざるなり蓋し倉庫制度の完備金融の圓滑は延て對外貿易の伸張を誘致するに至る可きこと論を俟たざるを以てなり。

されば吾人の我國の學者が一層綿密に這般の問題を研究し倉庫利用の發達に貢献せられんことを切望して止まざるものなり。(完)

日露英佛公債の利廻

高城仙次郎

目 次

- 一、緒 言
- 二、發行條件
- 三、利 廻
- 四、結 言

一、緒 言

歐洲大戰亂勃發以前に正貨問題と云へば國力に比して頗る多額の外債を有する我國が如何にして對外債務を決済すると同時に兌換制度を維持し得るかに在つたのであるが、今日の正貨問題は之と全く正反對であつて、如何にして政府並に日本銀行の手に落つる正貨を消化す可きかに存して居る。政府は既に此有り餘れる正貨を

利用して外債の買入償却を行ひ民間に於ても或は新事業を起し、或は既設事業を擴張したが、金融は尙ほ依然として緩慢である。然し此金融の緩慢は短期の貸借に限られて居つて、長期の貸借に就きては資金の供給が其需用に超過して居るとは容易に認むることが出来ない。戰爭勃發の月即ち大正三年七月中に於ける東京市中の貸付金日歩並に割引日歩は左の如くであつた。

(大正四年四月調金融事項參考書)

貸付金日歩	割引日歩
最高 最低	最高 最低
大正三年七月中 三三〇 一一三	三二〇 一五五

然るに最近東京市に於ける割引日歩は最高一錢七厘最低一錢二厘五毛である(『中外商業新報』大正五年十月二十日)。最近に於ける最低歩合を戦前の最低歩合と比較すると其間に殆んど何等の徑庭を見ないが、最高歩合は大に下落して居る。若し戦前の最高割引歩合を百とすれば